

研究

横川先生と佐伯 (二)

「郷土の研究」に学ぶもの

会員 山本 保

前回は、リ阿斯式海岸について触れました。
先日、ある新聞に次のような広告記事が掲載されてい
ました。

「祝 日豊海岸國定公園三月實現化……」

佐伯市	市長	池田利朗
上浦町	町長	松本英明
津久見市	市長	石田秀夫
臼杵市	市長	新名順次
佐賀蘭所	町長	古田鉄男
蒲江町	町長	塩月金正
赤水津村	村長	金田寅己
鶴見町	町長	安倍幸雄
弥生町	町長	工藤 豊

黒潮おどる南国の香り、すばらしい景観。眺望絶佳。
釣りの宿泊所。アツとおどろく、海底の神秘と南国のム
ードをお届けします。

海中公園グラスボート、屋形船行きへ海水浴、キャン
プ等。深島行き（磯釣り等）などの見出しも目にとま
りました。

昭和二十六年県立公園に指定された豊後水道は、現在
國定公園申請中です。

今回は、郷土の山地について紹介します。

一 郷土の自然

2. 山地

① 陸奥角帯山地（石灰岩地帯）

天間山に登った人は、谷を隔てて向こう（西南の方
向）に、険しい椿山を見るでしょう。

その継ぎにある米花山からずつと西南に連なる山々
は、地図を見るとおわかりのように、北東では彦岳を
経て蒲戸湾へ上浦町に伸びるようです。

この山地は、とても堅い岩石からできています。四
十分分の一地質図説明書には、陸奥角帯と書いてあり
ます。

彦岳の北側や東上浦村（上浦町）の浅海井の滝（曉
嵐の滝）の裏側や、それに近ごろ見て、とても驚いた
西山川（注字目町西山）の峡谷など、がけになった所は、
たいてい石英質の白く見える珪岩からできています。

西山川の峡谷は、がけのほかは、森林も深く水も美し
く、九州では類の少ないよいけしきでしょう。

この山地には、石灰岩があまり大量ではありませ
んが、山脈の方向に続いています。

幅や厚さの大きい所では、鐘乳洞もあります。中野
村（注字、本正村）の小半鐘乳洞や、西上浦（佐伯市）の稀生
鐘乳洞が有名で、中野村の風戸や因尾村（本正村）にも
鐘乳洞があります。因尾村の井、上では、川底の鐘乳
洞の中をくぐつた水が勢いよくふき出ています。

鐘乳洞は、おのちの地下水がいつぱい流れてでき
たもので、現在は、ほとんどが、からっぽになっていま
す。これまたたびたび申しましたが、地盤の隆起したせ

いと考えられています。

石灰岩の続く方向と番匠川の流れる方向とは少しく違っています。その交わる所は中野村の大半付近で、深い谷が険しいがけが造られています。

さて、尺間山の北方八kmには、四国の屋島のうに平らな石灰岩の山地があります。南側のハの部の部落では、台と呼んでいます。地図には基盤が岳と書いてあります。高さ七百m余りのこの山地は、険しい南側の斜面を上りつめると、驚くほどの平たい台地になっています。重岡村（宇目町）南部の水が谷や、小野市村（宇目町）西南部の天神原山（九七五m）がこれに似た地形であります。起伏の激しい山地の中に、どうしてこんな台地ができたのでしょうか。

私が前に述べた地殻の変動のことを思い出して下さい。

第三紀（約二千万年前）のもう一つ前の白堊紀時代（約六千万年前）、長い間わたって地殻は静かでした。その時代は、この地方も山々が削られて、平野に近い、低い山地になったと思います。その低い土地が、第三紀に入つて激しく隆起しました。その隆起した山地が、今私の書いてあるものなわけです。

朝も晩も絶え間なく働く雨や霜や川の作用は、硬い岩石さえもくずしてゆきました。

やがて、隆起した時の平らな面は少なくなり、所によつては全くなくなりました。しかし、特別の土地つまり石灰岩でできているとか、川の小さかった所などで、やはり、天神原山や水が谷なのです。

⑤ 硬砂岩千枚岩帯山地

鶴見崎から西南の方角に聳える元越山、場照山に引いた線に並ぶ山々は、ずつとゆるやかな地形です。

暗色の硬砂岩の大きな所には、よく滝がかけられています。蒲江峠の北側や下堅田村（佐伯市）の石打、それに中野村の小川の奥の滝は特に珍らしいものです。小川の鉋子淵では、滝穴の群れが、滝の落ち口の上に連なっています。口径五mもある岩の穴に、今は、おおかた土砂がたまっています。中には、水のうず巻きのため、ともえ形の岩の穴ができて、個所もあります。

硬砂岩のない所は岩石が柔らかいので、しぜん山地はおだやかな傾きをもっています。下八津村（今蒲江町）に行くと、細いひだ（折り目）の発達した千枚岩質の岩石が出ています。これを砕いて利用した段々畑の石垣は、なかなか見事です。

⑥ 火成岩帯山地

宮崎県との境の西南部は急に高くなります。その中心は傾山（二六〇五m）です。新百雄山（二七三三m）や桑原山（二四〇八m）を従えたすごい傾山は、元気のよい若者を招いているようです。

この山は、石英斑岩といつて、花崗岩に近い岩石からできています。傾山が北にある奥岳川（三重町）の谷は、百mあまりの絶壁で傾いています。板のような節理が垂直にできて、一氣にくずれたがけになっています。

宮崎県との境の山地が、千川を越えて一段と高いのは、何といつても不思議です。これは、山地隆起が海岸より奥地へ行くほど大きかったことを物語っています。

なお、傾山一帯の火成岩地帯が更に高いことは、もう一つ不思議なことです。というのは、地下のかなり深い所で固まった石英斑岩が、どうしてこんな高い山になったのでしょうか。それは表面の水成岩が、すっかりはぎくずされて火成岩が現われ、更に、それが高い山地になるという激しい地殻の変動と考えましよう。以上で、郷土の山々は、米花山、檜山、尺間山、岳、蒲戸崎に続く斑岩角礫山地（石灰岩）と、場原山、元越山、鶴見崎につづく硬砂岩千枚岩質の山地、更に、宮崎県境の祖母山、傾山、新百姓山、祭原山に連なる火成岩質の山地の三部分から形成されていることが、おわかりになったと思います。（後略）

臼杵、八代（熊本県）線に平行する紐状の石灰岩脈には、特色があります。

その石灰岩脈は、傾山から白山、川登を経て津久見湾にはいる連続的な線と、間尾、小半、野生、蒲戸崎にいたる断片的な線とに分かれています。

その二つの線に存在する野生、小半、風連の鐘乳洞（天然記念物）は著名です。また、七百山の平坦面を示している基盤が兵は八戸台と呼ばれ、隆起準平原の遺物です。この平坦面上に存在するドリーネ（すり鉢形の穴）群は、紹介するにふさわしい価値があります。

石灰岩地帯の故に、津久見市に小野田セメント津久見工場が、佐伯市海濱に日本セメント佐伯工場が、本庄村に西日本産業小半、浜後、中野各工場がそれぞれ建設されています。

本庄村小川の鉾子溪谷、宇目町の藤河外溪谷も名勝の

一つで、脚光を浴びようとしています。

特に祖母、傾山は、九重、阿蘇と並んで九州を代表する山岳です。九重、阿蘇の草原美に対して、祖母、傾山は原生林を主体に岩と溪谷の美しさが特色です。その男性的で雄大な自然景観は、国定公園に指定されています。その原生林はたぐさんの森（特別天然記念物カシカ）や鳥の宝庫です。溪谷には、天然記念物イワメも生息しています。祖母、傾山の原生林と溪谷を愛護しようという運動が押し進められています。

解 説

石英、花崗岩などの中に、火山含まれていて、ガラスのように見える鉱物。そしてまじりけがなく、美しいものが水晶です。

硬石（主として石英の粒からなる水成岩または変成岩、石灰岩）水中の動物の骨などが、水の底に積つてできた岩。大部が炭酸石灰から成り立っていて、石灰セメントなどの原料となります。

カルスト地形・鐘乳洞 石灰岩の多い地域に雨が降ると、空気中の炭酸ガスと含んだ雨水は、石灰岩の表面を溶かしてしまい、石灰洞と呼ばれるほら穴をつくつたり、凹凸のはげしいカルスト地形をつくらします（炭酸ガスや植物の根から分泌された酸を含む地下水は、石灰岩を溶かして鐘乳洞をつくりまします。鐘乳洞のある所では、上部の岩がしばしば落下ちこんで、地表にすり鉢形のくぼみをつくることがあります。これをドリーネといいます。）山口県秋吉台地方にはドリーネなどが多く、カルスト地形を形成しています。

硬砂岩 石英、長石などの外、多量の微小岩石片を含む

硬質砂岩。灰色。

水成岩。海や川、湖の底に沈み、たまつた物が固まつてできた岩。化石は水成岩の中にできます。

千枚岩。変成岩の一種。

火成岩。地下でどろどろにとけた物が、噴火のとき、地

中で固まつてできた岩石。雲母（黒い色）、石英（白いつぶ）、長石（灰色）など。

変成岩。水成岩や火成岩が、地下深い所で温度、圧力の

変化又は化学的作用を受けその性質を変えた岩石。

洞穴。急流の河床の岩石面に生じる鍋状の穴。河水の浸蝕作用によつて生じます。

景勝地

嵯峨の滝。浅海井駅近くの山の手にある高さ十五メートルの滝です。西側に屏風のように立っている山石壁は壯観です。

滝のほとりには神社（瀧神社）の境内には、樹令五百年余りのアコウ（くち科）の大樹や桜があつて、魅い場所です。

狩生鐘乳洞。昭和九年十二月二十八日、天然記念物として文部省の指定をうけました。洞内二五〇メートル、洞三十八景、新洞二

十七景もありますが、入洞施設は完備されていません。

小半鐘乳洞。大正十一年三月八日付、文部省指定天然記念物。洞の長さ七百米、入口から底無しの淵、布

引の滝、七福岩、天の川など、奥の院までの五〇箇所余りの所に、名称にふさわしい石筍、石柱、

泥筍が林立し、その壮観さは格別です。

「斜柱石」は、世界でも珍しい貴重な学術資料だといわれています。

入洞施設設備も一段と整つて来しました。

風連鐘乳洞。昭和二年、文部省指定天然記念物。

洞の長さ約五百メートル。鐘乳石、石筍、石柱などの發

達した洞内は、鐘乳石、石筍、石柱などの發達した洞内は、金世界、銀世界、黄宮城の三つに分かれ、それぞれすばらしい美観を呈しています。

八戸高瀬。標高一六〇メートルの基盤が岳から五六六メートルの距離をむすぶ石灰岩台地で、小倉の平尾台、山口

県の秋吉台と共に珍しいカルスト地形です。

眺望とハイキングに絶好の場所といわれています。

鉾子溪谷。文豪國木田独歩が佐伯にいたころ愛した土地で、雄淵、峻淵、鉾子淵など三つの滝があつて、

景勝の地です。

蘇河内溪谷。県教育委員指定の名勝。傾山麓からの流れが、いくつもの原始林の溪谷をつくっています。

その代表の一つが蘇河内溪谷です。約八〇メートルの落差、いくつもの花崗岩大洞穴群の連続です。溪流によつて形づくられた、変化した富んだ数々の洞穴や、観音

滝などが、秘境にふさわしい大自然の神秘さを感じさせています。

傾山。祖母、傾山園定公園の指定をうけた一六〇五メートルの高峯は、原始林や高山植物におおわれています。

この一帯に生息しているカモシカは、昭和三十一年二月十五日、文部省から特別天然記念物の指定をうけました。

山頂の雄大な展望すばらしく、九州の代表名山として、登山者の数近年々増加しています。

同園定公園内の施設を整備しようとする声が高まっています。

す。

以上のように、郷土にも景勝の地が沢山あります。

（この項終り）